

春の天王山ウォーキング 感想文



私は、毎年6月に、大峰山修行をしています「大阪信照講」の阪口と申します。

今回、その講のメンバーで「大山崎ふるさとガイドの会」の加藤良一さんからお誘いを受け、講のメンバー7名が参加しました。

私自身は9年前に一度、関西私鉄のイベントで今回とは逆コースの小倉神社から天王山に登っています。

全員集合し9時15分に加藤さんのガイドのもと出発しました。

今回、いろいろと印象に残ることがありましたが、二つ書かせてもらいます。

一つは「離宮八幡宮」です。なんと、川向こうの

「石清水八幡宮」と本家争いをしたんですね。結局、本家争いには負けたということですが、荏胡麻油の販売で有名などころなんですね。知りませんでした。

もう一つは、何といっても「旗立の松」より見た、山崎合戦地跡です。秀吉軍と光秀軍が争い2時間ほどで秀吉軍の勝利。

その後の豊臣家の栄華と没落。その景色をみると、歴史をもっと勉強しなくてはという気持ちになりました。

気ごろのわかっています加藤さんのガイドで、また講のメンバーと楽しい時間を過ごしまして、午後2時、西山天王山駅に到着しました。

加藤さん、ありがとうございました。また、大山崎の歴史を探索したいと思います。

(大阪信照講 阪口昭彦 記)

～わたしのふるさと～

OFG との出会い、私にとって新たな勉学の場となりました。日々新鮮な情報や感動が得られることがガイド活動の原動力となっています。大山崎の歴史を学び語る中で、私のふるさと山口県の旧長州藩士と向き合い、感慨にふけることがよくあります。

幕末の思想家・吉田松陰を学ぶ中で、最近判明し衝撃を受けたのは私が学んだ小学校の近くに吉田松陰の母・滝子さんの実家があったことです。滝子さんは阿川毛利の家臣・村田右中の三女で、その後に児玉家の養女となり杉家に嫁ぎました。滝子さんは大らかで苦勞を苦ともせず、働き者であったとのこと。

『親思ふ こゝろに
まさる親こゝろ けふの
音つれ何ときくらん』
〈松陰の永別句〉(右画像)
…… 帰省した際には松陰神社を訪ねたいと思います。

(3班 澤田裕子 記)



私のふるすとは、岡山市と鳥取市の中間に位置する津山市で、岡山県東部の中核都市の城下町です。初代領主は津山(鶴山)城を築いた森蘭丸の弟の森忠政で、森家が三代続いた後は、松平家が後をついで幕末に至ります。

私が育ったのは、鶴山城址から約4Km北で13戸の田舎の集落で皆が親戚のような付き合いをしており、仲間と悪いことをして近所の人によく叱られたことを記憶しています。

現在は、田んぼだった所に多くの家が建って昔の面影もなく、知り合いも少なくなって寂しいかぎりです。

観光的には、桜の花を上から見れる鶴山公園、その北にある藩主の別邸衆樂園、忠義桜で知られる作樂神社、京都に次ぐ扇形機関車庫等があり、江戸時代にも津山藩と彦根藩が牛肉を食べることを認められていたこともあるのか「ホルモンうどん」も有名です。

機会があれば一度のぞいてみてください。

(4班 矢内章太 記)

第二大山崎小学校天王山登山に参加して

5月1日(月)、五月晴れの中、天王山登山に参加しました。

元気いっぱい的小学校4年生総勢39人中4人を、小倉神社-天王山山頂-酒解神社-瓦窯跡公園-観音寺の順に先導しました。

話しかけると、「天王山に50回以上登ったよ」、「2,000m級の山に登ったよ」とかの自慢話が出てきたり、説明をじっと聞いたり、「秀吉知ってるよ」とか、何にでも興味津々な年ごろだと感じました。

替え歌を歌ったり、急に走り出したり、無邪気だけど、なかなか目が離せない局面もありました。下りの



瓦窯跡公園での説明

歩行では小股で垂直に踏みしめて歩くと滑りにくいか説明すると少し興味を持ってくれました。

今の内から歴史に対する興味、自分の故郷への愛着と誇り、そして山登りへの興味を抱いてくれればと感じた次第です。

(4班 高垣真二 記)

あちこち学習散歩 65 伏見を歩く

4月17日(月)晴天、参加者18名+1、3班の野尻さんの案内で、竜馬の幕末ゆかりの町・伏見を歩いた。

名水100選の御香宮神社を参拝し、鳥羽伏見の戦いの跡、伏見酒蔵通り、濠川堤防沿いを歩いて寺田屋へ。黄桜カップカントリーのレストランで利き酒を楽しみながら食事をして、昔ながらの町並みが残る伏見大手筋商店街を散策した。近鉄桃山御陵前をスタート/ゴールとするとても魅力的なコースだった。

御香宮神社は神功皇后を祀り、平安時代に境内から香りのよい水が湧き出していたので、清和天皇により“御香宮”の名を賜ったと伝わっている。

幕末の鳥羽伏見の戦いでは薩摩軍が陣を構えた。幕府軍が陣を構えた伏見奉行所は直線で500mもないのに驚く。

野尻さんはじめベテランガイドの皆さんの「うんちく」を聴きながら、楽しい時間を過ごすことができました。(プラス1の)家内ともども大いに楽しみました。

(1班 田口 准 記)



御香宮神社の石灯籠(燈油を注ぐための階段がある)